2024 年度　指定校推薦　小論文問題

次の文章を読み、問いに答えなさい。

１．ケアであるといえる範囲

ケアには、ある程度の錯誤と、相手の欲求に対する関心、感受性の推移とがつきものである。たとえば、正直と専心がケアするために欠くことができないことは事実としても、絶対的な正直と専心でなければケアを行うにふさわしくないというわけではない。ケアする両親、ケアする教師、ケアする友人、ケアする作家、すべて彼らにとって、よい日もあれば悪い日もある。ケアには浮き沈みがある。この意味において、ケアは程度問題であると考えられるだろうが、その程度問題というのは、多かれ少なかれ、よかれあしかれ、ある制限内での事柄である。ここで注意すべきことがある。それは、病的な依存関係を、低い順位ではあるがケアとして考えたり、また悪意ある操作的なやり方を“彼なりのケアのやり方”として片づけたり、あるいは、過保護もケアの一種であるかのごとく考えて“過保護に” ケアするということである。これらは誤りであるといわねばならない。これらはすべてケアの枠外のものである。というのは、もしこれらを、程度は低いにしてもケアなのだと考えたりすると、相違しているのはどこなのか、重要なのは何であるのかがわからなくなってしまうからである。

もし私がある対象について、それが本来的に持っている権利ゆえにそれが存在していると、心の底から感じとっていないならば、現在ほかにどのようなことが進行していても、私はケアしているということにはならない。子供たちに対していかに多くのことを準備したとしても、もし親の主な関心が、子供はこうあるべきだと親が考えるように子供を形成することであったり、子供が独立して自分で物事が決定できるようになることよりも、基本的に子供が親に依存したままでいる方がよいと思ったりしているようなことならば、この親はケアしていることにはならない。そのような場合、その子供は、自分が個として存在していると認められていないことを認識しているので、基本的にはケアされていないと子供は感じとっており、それは、十分理由のあることといえるであろう。実際、何が相手の成長のたすけとなり、たすけとならないのかということに照らして、自分の行動をぜひとも修正しようと望むこともなく、その能力もないのであれば、私はケアをしていることにはならない。

もしケアが実際に行われているものとすれば、私はある行動、ある態度をとることが必要なだけでなく、その私の行ったことの結果として、相手も変化、発展していくに相違ない。すなわち私は、実際に相手が成長するように援助しなければならない。自分がケアしているのかどうかを見きわめるためには、自分のすること、感じること、意図することを観察するばかりでなく、私の行動の結果として相手が成長しているかどうかをも、見なくてはならないのである。だからといってもちろん、そこに一対一の対応関係があるかのごとく、自分のすべての行動が相手の成長に直接かかわってこなければならないというものではないが、全体としてとらえた私の行動が、相手の成長を援助しているという状態でなければならないのである。そのうえで基本的に成長が認められなければ、いかなることをしていたとしても、私はケアをしていることにはならない。言い換えるならば、自分の行動は相手の成長の動態によって変化すべきであり、実際に起こっていることに照らして修正されるべきである以上、もし相手が事実上成長していないのであれば、私は相手の要求に対応していないわけであり、したがってケアをしていることにはならないのである。

２．ケアの相互性

友情が深い場合、そのケアは相互関係にあり、お互いが相手に対しケアをするのである。ケアは伝染する。私が相手をケアすることは、その人が私をケアすることの活性化をたすけるのである。同様に、自分に対する相手のケアが、その相手のために行うこちらのケアの活性化に役立っているし、相手のためにケアする自分を“強くする”のである。しかし、このような場合のケアに相互関係があるといっても、それは、『もし私をケアしてくれるなら、私もあなたをケアしよう』という取り引きとは意味が全く違うのである。そしてこのことは、私のケアが相互性を起こさないからという理由だけで、私が相手をケアすることをやめた場合があっても、ケアの相互性が取り引きでないことは真実なのである。

もし私たちが、学生のためにケアする教師や、患者のための精神療法家、あるいは芸術のために特別な仕事をする芸術家のような例のみを考えたとするならば、全てのケアは、終わりを告げることをもって理想としているように思えるにちがいない。これではケアでの成功の規準とは、ケアが必要でなくなること、あるいはケアがなくてもかまわない状態になること、ということになるであろう。たしかに私たちは、師弟の関係を脱却し“教師より抜きんでた”学生や、自分の生活に責任を持てるようになり、精神療法家をもはや必要としない患者、あるいは完成され、芸術家の手をもはや必要としない芸術作品などを話題にする。しかしながら、このいずれの場合においても、ケアを脱却することがその目的でないのは明らかである。両親と子供の関係を考えてみよう。両親は、子供が自らをケアできるようになるまで子供をたすけるのであるが、だからといって、それで親子の関係を終らせてしまうつもりではない。同様に私たちは友情についても、相手の成長を互いにたすけ合うような成熟した友情が、無限に続いてくれることを望むのである。

出典：ミルトン・メイヤロフ著　田村真・向野宣之訳　『ケアの本質－生きることの意味』ゆみる出版　1987 年。
出題のため一部改変。

問１　本文を要約しなさい。（300 字以内）

問２　ケアとは何かについて思うところを、身近な例を挙げながら述べなさい。（500 字以内）

以　上